

姫岳合戦が展開された姫岳城跡等が所在する。これらは本市の中世の歴史を知る上で重要なものである。

第3節 未指定文化財

(1) 未指定文化財の件数

昭和53年度(1978)から、市内全域を対象とした文化財の把握調査として津久見市文化財実態調査を行った。その成果は「津久見市文化財実態調査票」としてまとめられ、昭和60年(1985)の『津久見市誌』の刊行につながった。その後も、平成12年度(2000)に行った巨樹・巨木林フォローアップ調査や平成27年度(2015)から継続して行ってきた地域資源発掘調査等は、それぞれ、それまでの調査を補足する形で実施してきた。

そこで、地域計画の作成にあたっては、これまで行ってきた把握調査や各種文献資料をもとに「津久見らしさ」を表す未指定文化財を確認し、津久見市の未指定文化財件数一覧としてまとめた。

なお、表9のように令和7年(2025)8月末時点で、1,313件の未指定文化財が確認されている。

表9 津久見市の未指定文化財件数一覧

種別	津久見地域	青江地域	下浦地域	日地域	四浦地域	保戸島地域	市内全域	総計
有形文化財	96	85	44	23	28	9	34	319
建造物	10	4	16	0	0	0	0	30
美術工芸品								
絵画	2	4	0	2	0	0	0	8
彫刻	3	0	0	0	1	0	0	4
工芸品	0	2	0	0	0	1	0	3
書跡・典籍	0	0	0	0	0	0	0	0
古文書	3	2	1	2	1	0	0	9
考古資料	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料	2	2	1	3	1	0	34	43
石造物	76	71	26	16	25	8	0	222
無形文化財	0	0	0	0	0	0	0	0
民俗文化財	92	91	59	27	36	25	176	506
有形の民俗文化財	69	69	34	7	22	6	0	207
無形の民俗文化財								
民俗芸能	8	9	8	5	7	1	0	38
説話・伝説	12	12	8	1	1	5	3	42
歌謡	-	-	3	13	1	11	10	38
郷土食	0	0	0	0	0	0	72	72
年中行事	3	1	6	1	5	2	91	109
記念物	61	44	24	16	12	4	0	161
遺跡								
山城	1	3	0	0	1	0	0	5
その他	10	13	8	3	2	4	0	40
名勝地								
庭園	0	0	1	0	0	0	0	1
その他	0	1	0	1	3	0	0	5
動物、植物、地質鉱物	50	27	15	12	6	0	0	110
文化的景観	8	12	5	0	3	3	0	31
伝統的建造物群	0	0	0	0	0	0	0	0
文化財の保存技術	0	0	0	0	0	0	0	0
由緒地	95	75	59	23	34	10	0	296
寺院	4	5	1	1	2	2	0	15
神社	24	14	9	5	13	1	0	66
堂宇・小祠	67	56	49	17	19	7	0	215
総計	352	307	191	89	113	51	210	1,313

※令和7年(2025)8月末時点での数値

（２）未指定文化財の概要

①有形文化財（建造物）

有形文化財の建造物は、木造建築物や、地元の建築材料である三和土等（砂・石灰・海水等を混ぜたもの）を使った建築物に分類して確認した。

木造建築物は、赤八幡神社豊明殿と神楽殿、市営グラウンドに残る赤八幡神社土俵、旧マルキン百貨店、臼杵藩道尾組大庄屋宅跡、石灰乾燥棚（白石工業株式会社津久見工場）、土中窯（株式会社丸京石灰）、中津留洋品店、旧向井医院等 9 件を確認した。

本市特有の建築材である三和土等を用いたみかん小屋（蔵）は千怒地区で数十棟が報告され、さらに、灰石（溶結凝灰岩）を使って建てたみかん蔵は津久見・長目地区で合わせて 21 棟が確認できた。段々畑等のみかん園等に建てられたみかん小屋（蔵）は、本市ならではの特徴的な景観を形成している。



千怒鍛冶屋石幢

②有形文化財（美術工芸品）

絵画は、由緒地（寺院）等で所蔵されている涅槃図や屏風等 8 件を確認した。

古文書は、9 件確認し、2 件中世の文書を除いたほかは全て近世から近代にかけての資料群である。

彫刻は 4 件、工芸品は 3 件確認し、それぞれ由緒地（寺院、神社）等に所在するものである。歴史資料は、43 件を確認した。

③有形文化財（石造物）

石造物は、宝篋印塔・石幢（六地藏塔）・五輪塔（群）等の石塔類を 142 件、功碑・記念碑・歌碑等の石碑類を 69 件確認した。またその他の石碑類では相撲取りの碑 11 件等が確認できた。石塔類の中には、まとまり（石塔群）として数えたものもあり、五輪塔等中世に遡る可能性のあるものも多く含まれる。

④民俗文化財

有形の民俗文化財は、南部四国八十八か所札所 107 件、庚申塔 54 件、えびす像 30 件、その他金毘羅信仰の対象となるもの、民俗芸能用具等合わせて計 207 件を確認した。

無形の民俗文化財は、民俗芸能、説話や伝説、歌謡、郷土食、年中行事に分類して、合わせて 299 件を確認した。

民俗芸能は 38 件確認した。盆踊り、獅子舞が主である。盆踊りは各地で行われており、区（地域）



蔵富庚申塔群（上青江蔵富）

行事として行われるものから地区単位で行われてきたもの等 34 件を確認した。令和 2 年（2020）以後続いた新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため開催を見送ってきた地区もあったが、令和 6 年（2024）にはほぼ全地区で開催された。

説話や伝説は市誌や郷土史に基づき 42 件を確認した。本市に伝わる説話や伝説は、大きく自然伝説・歴史伝説・信仰伝説に分けられ、蛇・岩・水に関する自然伝説 15 件、落人・御寅御前・炭焼き小五郎等の歴史伝説 6 件、寺院・神社・河童に関する信仰伝説 21 件である。豊後水道に面する地区では海に関する伝説が伝わり、山に囲まれた地域では山に関する伝説が、それぞれ色濃く残っているのが特徴である。

歌謡である盆踊りの口説きや音頭について『津久見史談』等郷土史や市教委の調査で 38 件を確認した。同じ口説きでも各地で踊りが異なっており、地域の特色をあらわす文化の一つであるといえる。

代表的な郷土食として 72 件を確認した。芋・麦を主食としてきた中で作られてきた、しんちょき餅・芋あん餅・カンコロ餅や団子・石垣餅等がある。また副食として作られてきた代表的な郷土食に、豊富に獲れる魚介類や海藻類を食材としたひじき飯・サツマ・リュウキュウ・キラスマメシ・おひら・タタキゴボウ等がある。さらに、夏の時季によく食べられてきた代表的な郷土食に冷汁・マゼクリ飯（五目飯）・白あえ・佃煮・海藻クロメ汁等がある。

近年、市内の料理店で伝統的なマグロ料理を受け継いだひゅうが井やモイカを使った料理を提供するキャンペーンが行われ、市内外から多くの人たちが訪れるようになっている。

そのほか、明治時代に長崎県対馬から伝わったという「（保戸島の）かずまき」や、「宗麟^{もなか}最中」、^{せつかい}「セメント饅頭」等は、津久見ならではのユニークなネーミングで好評である。また、「お石灰せんべい」といった新たな土産菓子も考案されている。

年中行事は市誌や郷土史の記述に基づき 109 件を確認した。本市は天満神社が多く残っており、豊後水道に面した本市は、三方を山に囲まれた地理的特徴から、合祀されたものを含めるとかなりの数になるものと思われる。これらは地域をあげて行う氏神様の祭りや、小字や数戸単位で行われる小さな祭祀集団の祭り、山の神祭り、水神祭り、お大師祭り等の特定の神仏に対する信仰集団で行われる「小祭り」と呼ばれる祭り等、様々な祭礼や年中行事が行われてきた。こうした祭り行事は、地域の生活文化を形成していく上での核となり、住民の心を一つにさせるなど大切な役割を果たしてきた。



下青江神社獅子舞



徳浦の盆踊り

⑤記念物（遺跡）

山城とその他に分類して確認した。

山城は、『大分県遺跡地図』で所在が確認できており、本市では、姫岳城跡をはじめ5件が確認されている。

その他の遺跡は40件で、中世の大友氏別館跡ほか館跡・陣屋跡、佐伯城路等古道跡、臼杵藩・佐伯藩の口屋番所跡・御茶屋跡、神社跡等が該当する。そのほか、蛇紋岩採掘場跡やマンガン採掘坑跡のように鉱物資源として採掘されていたものがある。

⑥記念物（名勝地）

庭園とその他に分類して6件確認した。

庭園は1件で、海岸寺庭園（堅浦）が該当する。

名勝地（その他）として、自然に形成された淵や洞窟、波の浸食を受けてできた海食洞等、5件を確認した。

⑦記念物（動物、植物、地質鉱物）

動植物は97件で、市内各所の巨木や、長泉寺のタチバナ、赤八幡神社、鍛冶屋天満社の社叢等がある。

地質鉱物は13件で、フズリナや二枚貝、放散虫等の化石、褶曲等の地質構造のほか、網代島のチャート層や江ノ浦の隕石衝突痕等、宇宙や地球の歴史を記録した痕跡等がある。



保戸島の景観
（未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選）

⑧文化的景観

みかんの段々畑等の農業景観、津久見湾岸の漁村景観、石灰石鉱山や町を横切るパイプ等の産業景観等、特徴的な景観が数多く、31件を数える。

⑨由緒地

地域計画では、各地域で大切にされてきた多種多様な文化財が集中する寺院や神社、堂宇・小祠を「由緒地」と捉え、今後の把握調査の対象として津久見市の未指定文化財件数一覧に整理した。

その結果、由緒地（寺院）を15件、由緒地（神社）を66件、堂宇・小祠を215件、それぞれ確認した。なお、堂宇・小祠215件のうち、97件は南部四国八十八か所札所となっている。